

# 安定的な利用を目指したアサリ資源回復技術の研究

(予算区分 研究費 研究期間 平成 28~30 年度)  
担当：水産技術研究所 浜名湖分場 小泉康二

## 【研究の背景とねらい】

- ・ 浜名湖のアサリ漁獲量は、近年、不安定な状況にあり、資源の安定的な利用に対する漁業者の思いは強くなっています。また、平成 28、29 年は資源の減少を背景に、観光渡船潮干狩りが中止になるなど地域経済へ大きな影響を与えました。
- ・ 資源減少要因の一つとして、クロダイなどによる食害が漁業者から報告されており、その対策が急務となっています。
- ・ 漁業者は、アサリ資源を増やすため、天然採苗などの新たな取組を開始しましたが、採苗器が埋没するなど、管理負担が大きいことなどが課題となっています。また、湖奥部で大量に発生した稚貝を有効利用するため、禁漁区などへ移殖する取組が行われていますが、近年は十分な稚貝の発生が確認されていないことから、その実態を把握し、対応を検討する必要があります。
- ・ 本研究では、アサリ資源の回復を目的に、食害対策や効率の良い天然採苗技術を開発し、アサリ資源の安定的な利用を目指します。

## 【研究成果】

- ・ 水中カメラによる撮影の結果、多数のクロダイがアサリを捕食する様子が観察され、食害は主にクロダイによるものと明らかになりました。
- ・ 海底を網で覆う「被覆網」やより広範囲の漁場を囲うことができる「囲い網」を用いることで、クロダイからの食害防除効果（120 日後の生残率が約 80%）が確認されました（図 1）。
- ・ 毎月 1 回継続して、稚貝の生息状況を調査したところ、湖北部の佐久米では移植用の大型稚貝（殻長 20 mm 以上）はほとんどいないものの、小型稚貝（殻長 10 mm 以下）は高密度で確認されました。
- ・ 佐久米では、採集器を利用することで、そのままでは自然消滅してしまう小型稚貝を大型稚貝として、採集することができました。また、湖南部の主漁場近隣（競艇場東）での採集と比べ、成長が早くより大型の貝が多くみられました（図 2）。

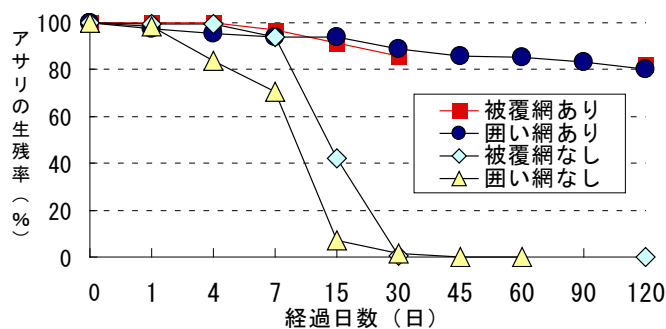


図 1 被覆網及び囲い網による食害防除効果

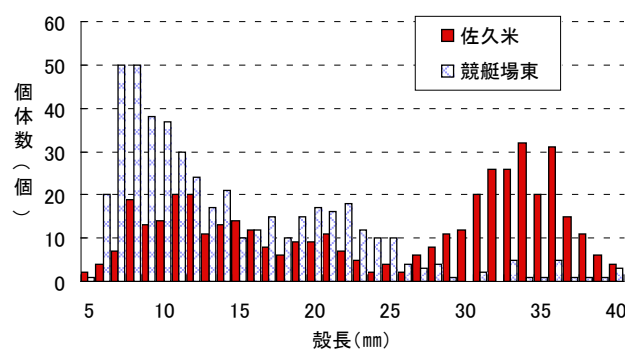


図 2 採集器による稚貝採集結果

## 【研究成果の普及方法】

- ・ 地元の関係漁業者のほか、全国のアサリ研究者が参加する会議や広報誌などで広く発表し、アサリ資源の回復に活用されます。